

AD/HD とは？

- 発達障害の一つ「Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder」の頭文字をとった略称で、日本語では「注意欠陥 / 多動性障害」と訳されます。最近では、「注意欠如・多動性障害」と呼ばれることもあります。
- AD/HD の主な特徴は、「不注意」「多動性」「衝動性」の3つで、これらが少なくとも2つ以上の状況（例えば学校と家庭など）で見られます。
- 特徴のあらわれ方の違いから、「不注意優勢型」、「混合型（不注意、多動性、衝動性の3つがみられる）」、「多動性・衝動性優勢型」の3つのタイプに分類されます。
- AD/HD と類似した症状を示す可能性のある「精神疾患」として、主に下記があげられます。
 - ◇ 破壊的行動障害
 - ◇ 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害
 - ◇ 限局性学習症/限局性学習障害
 - ◇ 知的能力障害
 - ◇ 運動症群/運動障害群（発達性協調運動症など）
 - ◇ チック症群/チック障害群（トゥレット症など）
 - ◇ 強迫症/強迫性障害
 - ◇ 不安症群/不安障害群
 - ◇ 抑うつ障害群（うつ病）・双極性障害（躁うつ病）
 - ◇ 児童虐待と関連の深い反応性アタッチメント障害（愛着障害）
- AD/HD の治療には大きくわけて、お薬による『薬物療法』と『心理社会的アプローチ』の2種類があります。治療に取り組んだからといってすぐに治るとい病気ではありませんので、治療は治すことを目的とするのではなく、まずは、病気をもっている健康な人と同じように日常生活や社会生活を送れるようになることを目指していきます。
 - ◇ 『薬物療法』

AD/HD では、脳内の神経伝達物質であるドーパミンやノルアドレナリンの作用が不足気味であるといわれています。そのため、不足している神経伝達物質を増やす働きのあるお薬が主に用いられます。これらのお薬は、不注意、多動性、衝動性などのAD/HDの主な症状を改善する効果があります。

AD/HD の治療薬は、放出されたドーパミンやノルアドレナリンが再び取り込まれるのを抑制し、受容体に結合しやすくします。このように、神経伝達物質の働きを活性化することで情報伝達がスムーズになり、AD/HD の症状（不注意、多動性、衝動性）が改善されると考えられています。ただし、はっきりとしたメカニズムが解明されているわけではありません。
 - ◇ 『心理社会的アプローチ』
 - 「行動療法」～問題行動を改善・修正する
 - 「ソーシャルスキル・トレーニング（SST）」～社会性を養う
 - 「心理療法」～過去の失敗や将来の不安をケアする
 - 「ペアレント・トレーニング」～保護者がAD/HDを理解し、対応のコツを学ぶ

※ <https://www.ADHD-navi.net/> 参照